

# 外来患者 受診控え続く

## 県保険医協会 開業医アンケート

県保険医協会は三十日、五月中の開業医の診療における新型コロナウイルスの

影響についてのアンケート結果を公表した。医科の約80%、歯科の約90%が前年同月と比べ外来患者が減ったと回答した。四月に続く二回目のアンケートでも収入減が続ぎ、病院経営が苦しくなっていると、協会は県に対し、減収の補填などを求める要望書を提出した。

医科の二百九人、歯科の六十一人が回答した結果、医科で78%、歯科では92%が患者が減った。四月の調査では医科・歯科とも90%近くが患者が減ったとしており、受診控えが続いている現状が浮き彫りになった。受診を控えて症状が悪化したケースもみられたという。

保険料収入も、医科で66%、歯科で80%が前年より減少したと回答した。一方で、国の持続化給付金を「使わない」との回答は半数を超えた。各種の助成金や融資は条件が厳しいなど活用が進んでいないとい

う。

協会は県に同日提出した要望書で、すべての医療機関に対し、独自の支援金や給付金による減収補填を講じ、受診控えによる重症化の防止に向けて県民への広報に取り組むことなども求めた。

宮崎智徳会長は「減収の上で感染対策費用がかさんでおり、地域医療の存続が危ぶまれる状況だ」と支援を訴えた。  
(熊崎未奈)

